

未来に効く、薬学を。

PHARMA EFFECT

立命館大学
薬学部

2027



薬学部の人材育成目的と3つのポリシー

人材育成目的

立命館大学薬学部は、医薬品等を通じて人の生命や健康にかかわるという使命感や倫理観を持ち、人類の健康と幸福に貢献し、グローバルに活躍できる人材を育成します。また、平和と民主主義を基調とする教学方針に基づき、自由で清新な気風をもって真理を探究する人材の育成を目指します。各学科の具体的な人材育成目的は以下の通りです。

〈薬学科人材育成目的〉

医薬品についての高度な専門知識、実務能力、医療人としての素養を有し、他の医療関係職種と連携して地域医療や公衆衛生の向上に先導的な役割を果たす薬剤師、および研究マインドを持ち薬剤師として医療薬学分野の発展に貢献できる人材を養成することを目的としています。

〈創薬科学科人材育成目的〉

創薬の高度な専門知識と研究力を有し、医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を養成することを目的としています。

アドミッション・ポリシー

薬学部は、医療の高度化に伴う薬学の深い専門的な力量をつけるため、以下のような学生を求めています。

- (1)理科・数学において基礎的な知識を有し、科学的な思考力を持つ者。
- (2)課題探究心、社会性および一定のコミュニケーション能力を有する者。
- (3)薬学科では先端的な医療に関心を持ち、高度専門職業人としての薬剤師となることを強く志望し、そのために努力を惜しまない者。
- (4)創薬科学科では医薬品創製および関連分野において基礎研究および臨床開発に携わり、グローバルに活躍することを強く志望し、そのために努力を惜しまない者。

カリキュラム・ポリシー

薬学部は、医薬品等を通じて人類の健康と幸福に貢献できる人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成します。

〈薬学科カリキュラム・ポリシー〉

- (1)豊かな教養や人間性を涵養する科目を配置する。
- (2)医療人である薬剤師として相応しい態度や倫理観を涵養する科目を配置する。
- (3)基礎薬学から実践的な医療薬学まで、薬剤師として必要な知識、技能を養成する科目を系統的に配置する。
- (4)医療人である薬剤師に必須なコミュニケーション能力を養成する科目を配置する。
- (5)医療や科学の高度化に対応できる幅広い知識、論理的な思考、研究マインドに基づく問題発見・解決能力を涵養する科目を配置する。
- (6)地域社会における医療の担い手として必要な公衆衛生・医療・福祉等についての知識を習得する科目を配置する。
- (7)英語での情報収集・発信能力を涵養する科目を系統的に配置する。

〈創薬科学科カリキュラム・ポリシー〉

- (1)豊かな教養や人間性を涵養する科目を配置する。
- (2)薬学を基盤とし最先端の創薬研究に必要な知識、技能を養成する科目を系統的に配置する。
- (3)薬学や医学の発展・高度化に対応できる幅広い知識、論理的な思考力を養成する科目を配置する。
- (4)企業や大学において基礎研究および臨床開発に必要な問題発見・解決能力を醸成する科目を配置する。
- (5)英語での情報収集・発信能力を涵養する科目を系統的に配置する。

ディプロマ・ポリシー

薬学部は、「薬学を基盤として人の健康にかかわる自然科学を学び、基礎薬学から臨床薬学までの専門知識と研究力を備え、医薬品等を通じて人類の健康と幸福に貢献できる人材」を育成することを目的として、卒業時において身につけておくべき素養（教育目標）を下記の通り4項目定めています。これらの素養の獲得と各学科の教育課程に規定する所定単位の修得をもって、各学科人材育成目的の達成とみなし、学士課程学位を授与します。

〈薬学科ディプロマ・ポリシー〉

- (1)医療人である薬剤師として身につけておくべき、幅広い教養に基づいた豊かな人間性、専門的な知識・技能および相応しい態度と倫理観・使命感、コミュニケーション能力。
- (2)医療の高度化と医薬品創製に関わる技術の進歩に対応できる知識、探究心、問題発見・解決能力。
- (3)地域社会における医療の担い手として必要な公衆衛生・医療・福祉等についての知識・技能・態度。
- (4)国際社会でも活躍できる英語での情報収集・発信能力。

〈創薬科学科ディプロマ・ポリシー〉

- (1)最先端の創薬研究を遂行するうえで必要な知識と技能、問題発見・解決能力。
- (2)研究者としての自立心と向上心、探究心。
- (3)人の健康に関わる仕事に携わる人材に相応しい倫理観と使命感。
- (4)国際社会でも活躍できる英語での情報収集・発信能力。

あなたは考えたことがありますか？

もし、薬がなかったらどんな世界になっていたのかを…。



薬の誕生と発展がなければ、人は長生きできなかったかもしれない。

遙か昔の石器時代や青銅器時代は、生まれた直後から高い死亡率との闘いでした。現代の日本では、平均寿命である80歳に近づくとき急激に死亡率が上がります。この変化には環境や公衆衛生の進歩も関係していますが、薬をはじめとする医療の発展が大きく貢献していると言えるでしょう。



現代の死亡原因のトップ10。その半分以上が感染症です。

1929年のフレミングによる抗生物質の発見と1798年のジェンナーによるワクチン開発。それらは天然痘の撲滅など、劇的な功績をもたらしました。もし、この世界にワクチンも抗生物質もなかったとしたら、日本でも多くの人が若くして感染症で亡くなっていたかもしれません。



手術が行えるのは、麻酔薬があるからです。

医療といえば手術を思い浮かべる人も多いでしょう。手術に必要なのが麻酔薬です。麻酔薬がないと安全な手術はできず、現代のような医療の発展もなかったはず。古代でもケシやコカの葉、アルコールを使っていたものの、ある程度の痛みを伴う手術が当たり前でした。もし全身麻酔が生まれなければ、現代の手術は想像を絶する苦痛があったはず。もちろん、そんな拷問のような手術では健康を取り戻せるわけではありません。



完全に薬のない世界は、存在しない。

人類は古代から身の回りにある様々な薬草の効能を調べ、効果を伝承してきました。人類は薬と密接に関わり合い、現代までの歩みを進めてきたのです。そして、その集大成が現代の創薬へと繋がっています。

これまでも、これからも。

日本は「創薬」で世界を変える。



新薬を開発できるのは、ごくわずか。

日本はアジアで唯一、新薬を開発できる国で、バイオ医薬品や遺伝子診断など、「先端創薬」の開発も積極的に行われています。漢薬の「喜樹」の成分を化学変換して合成されたイリノテカン（抗がん剤）や冬虫夏草の成分をヒントに開発されたジレニア（免疫抑制剤）など、独創的な薬の数々が日本の大学から生み出されているほか、メタボリック治療薬の代表である抗コレステロール薬も日本が世界に先駆けて開発したもの。日本の製薬技術の高さを世界に示しています。



切っても切れない、薬と忍者と滋賀の関係。

甲賀忍者の修行地として有名な、滋賀県と岐阜県にまたがる伊吹山。伊吹山には、伊吹トウキや伊吹トリカブトを筆頭に、「伊吹」と名の付く薬用植物がたくさん存在しています。そのため滋賀から全国に広がった薬や創薬技術も数多く、滋賀県甲賀市に伝わる「萬川集海」という忍術書にも、飢えをしのぐ薬や、眠気を覚ます薬なども記載されています。古くから薬と深い関係を持つ滋賀で薬学を学ぶことは、薬の歴史を知るうえでも大きな意義があるのです。



1剤で年商1000億を生む、日本発のブロックバスター。

近年、急速に発展を遂げてきた日本の医薬品開発能力。これまでにない薬効を持ち、多大な利益を生む新薬…、いわゆる「ブロックバスター」も、日本から数多く生み出されました。1980年代に出たジルチアゼム（Ca拮抗薬）を皮切りに、抗コレステロール薬のメバロチン、臓器移植の成功率を飛躍的に上げたタクロリムス、アルツハイマー治療薬のアリセプト、2015年のノーベル賞になったイベルメクチン（抗寄生虫薬）など、日本初の新薬が世界で広く使われています。

薬の研究者になること。
それは世界を救うこと。

[ひとつの薬が世界を変える可能性を持っている]
薬学の学びを通して、誰かを救いたいという想いを、
立命館大学 薬学部は先進の学びと環境で応援します。



薬学部の6つの特色

薬の専門知識だけでなく、人と向き合う力も育てる薬学部。

英語で学ぶ授業や留学、先生の手厚いサポート、最新の研究環境がそろう、自分らしい未来に向かって安心して学べます。

01

未来型医療人の育成

薬学部では、未来の医療人に求められる力を考え教育しています。その1つが、医療用ロボット・医療シミュレーターを用いたフィジカルアセスメント（身体状況把握）の教育です。在宅医療が今後いっそう進んでいくなか、薬剤師として患者の身体状況を把握し薬剤の適正利用に役立てる力が大切になってきます。



02

研究環境の充実

薬学部では、先端的な基礎研究と創薬研究を行っています。そのため物理系、化学系、生物系のさまざまな最新研究設備を整えています。例えば写真の共焦点レーザー顕微鏡は、細胞や組織の内部構造や構成タンパク質が発現している場所などを極めて高い解像度で観察できます。また、生きたままの細胞や組織を観察できるため、細胞や組織の内部構造やタンパク質などの動きや変化をリアルタイムで詳細に観察することができます。これを使うことで細胞や組織内で起こる現象について詳細に調べ、疾患の原因を明らかにする研究を行っています。



03

高度な英語学習

薬学部の英語プログラムは「スキルワークショップ」と「プロジェクト」の2本柱で構成されています。「スキルワークショップ」ではネイティブ教員による徹底的な訓練により総合的な英語スキルの向上を行います。「プロジェクト」では研究成果等を英語で発信することを通じて、英語運用能力やプレゼンテーション能力を身につけます。



04

薬学教育支援の充実

薬学の学びには、化学、生物、物理の幅広い基礎力が必要です。専門分野の担当教員に加え、薬学の基礎教育を専門に行う教員が入学後から卒業までの学びをサポートしています。また、薬学教育支援センターの教員が、勉強方法についての相談や専門科目の質問に対して、丁寧に分かりやすくアドバイスします。こうしたサポートにより学習意欲を育てています。



05

産学連携の推進

薬学部では、再生医療・遺伝子治療・細胞治療など先端医療分野において、産学連携による実践的な教育・研究を展開しています。学生は「薬学キャリア演習」などを通じて企業や医療機関での体験学習に参加し、最新の医薬品開発や医療現場に触れながら専門性を高め、キャリアビジョンを具体化します。さらに、地域の薬局・病院と連携した活動にも取り組み、地域の健康課題に向き合う実践を通じて、医療・福祉に貢献できる薬剤師・未来型医療人の育成を目指しています。



06

豊富な国際交流

薬学部では学部独自の留学プログラムも用意しています。カナダのトロント小児病院での研修を通じて、医療制度や薬剤師業務を学ぶ「Toronto Clinical Training Program」は、臨床に関わる病院薬剤師をはじめ、薬局や企業等で薬剤師として活躍するために国際的な視野を身につけてもらうことを目的とした海外留学プログラムです。また生命科学部等と共同実施しているカリフォルニア大学デービス校「サイエンス&テクノロジー」プログラムでは、語学力アップはもちろん、最先端のサイエンスやテクノロジーを英語で学ぶことができます。



P4.に
留学体験記を
掲載！



TCTP留学プログラム体験記

私がTCTP留学プログラムを通して最も印象に残っていることは、「関係者との議論や連携において、自身が学んだ薬学に関する専門性を発揮すること」の重要性を実感したことです。トロントの学生との薬物治療に関するディスカッションでは、これまで授業や実習で培った知識を英語で伝え、議論に参加できたことで、学びの成果を実感することができました。またSickKids小児病院での実習では、薬剤師が薬物治療の中心的な役割を担い、異なる文化や背景を理解した上で多職種と連携する姿や、子供とその家族を尊重した関わり方を学ぶことができました。

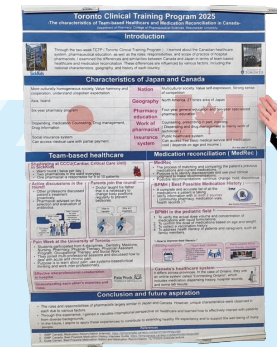
留学は自身の知識や語学力の成長を実感するとともに、新たな視点や価値観に触れることができる貴重な機会だったと感じています。

TCTP: Toronto Clinical Training Program

三輪 佳蓮 (松江北高等学校出身)
薬学科6回生 免疫微生物学研究室



学校終わりに
友達とミュージカル鑑賞



ポスター発表



SickKids小児病院の前で
修了証書を手に集合写真

高度化・多様化するフィールドに対応し、 目指す進路に合わせて学べる2学科体制を採用

薬の種となる有効な物質の発見から始まり、その物質を薬として育て、さらに必要とする患者さんに供給することによって、人類の健康へ貢献するのが薬学です。薬学は物質を扱うための化学、薬が生体に与える影響を考えるための生物学などの基礎学問をベースにした総合的な学問分野です。立命館大学薬学部では、「薬を創る」、「薬の作用を理解する」、「薬を正しく使う」という3つのカテゴリーを将来の進路に合わせて学び、薬学のエキスパートとして社会で活躍できる人材を養成するために、薬学科（6年制）と創薬科学科（4年制）を開設しています。



6年制

薬学科

高度医療時代を支える優れた薬剤師を育成。

高度化する医療現場において自ら課題の解決に取り組める、“研究マインド”を持った薬剤師を育成。薬の専門知識はもちろん、調剤以外の役割を担えるコンサルティング力や社会のニーズに対応できる柔軟性など、時代の薬剤師にふさわしい能力を養います。

想定される進路

病院薬剤師 薬局薬剤師
企業での研究職・開発職 MR
CRA/CRC 公務員 大学教員

4年制

創薬科学科

新たな薬を創製できる、研究者の実力を磨く。

薬学を基礎から臨床まで幅広く学び、新たな薬の発見・創製に貢献できる研究者をめざします。「薬を中心に据えた」人の健康にかかわる自然科学と創薬科学の知識・技術をトータルに修得できるカリキュラムのもと、興味や目標に応じた専門性が磨けます。

想定される進路

製薬・化学・食品関係
企業での研究職・開発職 MR
CRA/CRC 公務員 大学教員

薬の作用を理解する

化学・物理学・生物学

基本的な考え方や知識、生命現象の原理・機構等幅広い分野についての理解

- 生化学 ○ 分子生物学 ○ 生薬学 ○ 天然物化学 ○ 微生物学
○ 衛生化学 ○ 有機化学 ○ 物理化学 ○ 分析化学 ○ 放射化学

薬学

ヒトの健康・病気・薬物治療薬の製造・開発

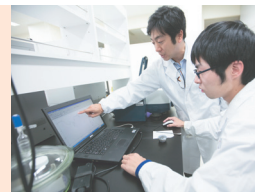
- 薬理学 ○ 病態・薬物治療学 ○ 薬剤学 ○ 日本薬局方概論
○ 薬物動態学 ○ 薬事法規・薬事制度 ○ 解剖・生理学 ○ 免疫学 ○ 再生医療学

薬を正しく使う

臨床薬学

医療を指向した専門講義や現場での実習。
薬剤師として必要なスキルを磨く。

- 医療薬学実習
○ 実務前実習
○ 卒業研究

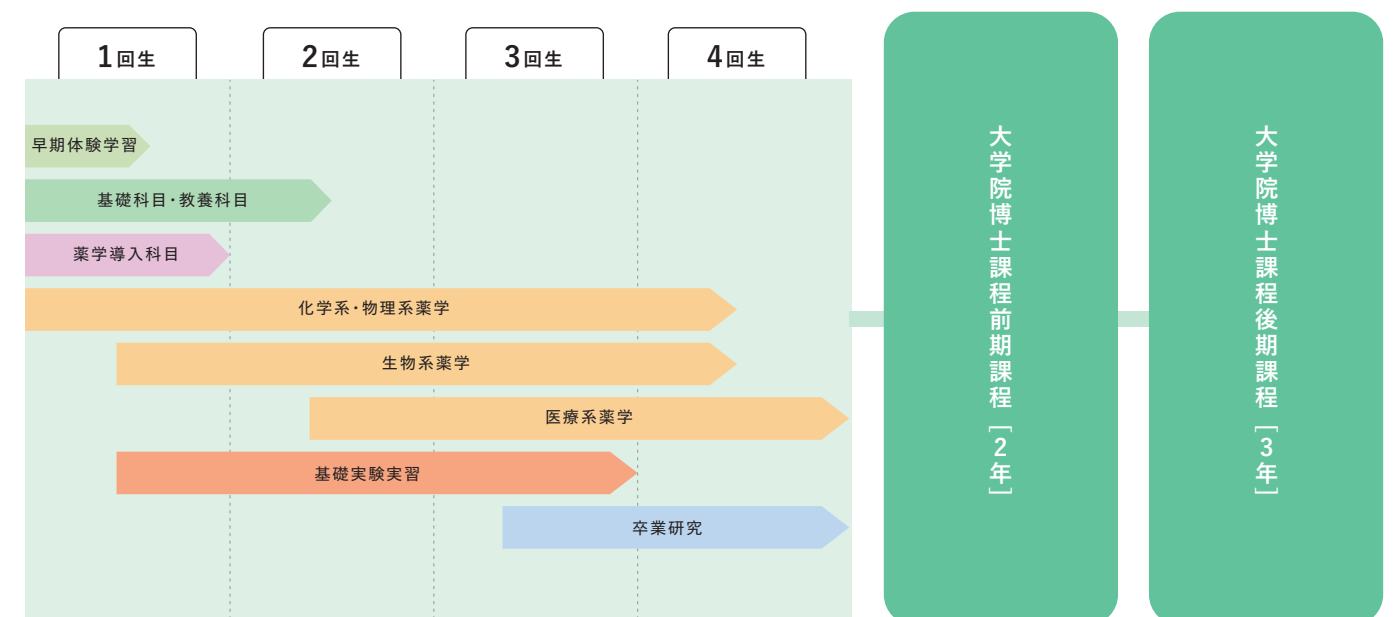
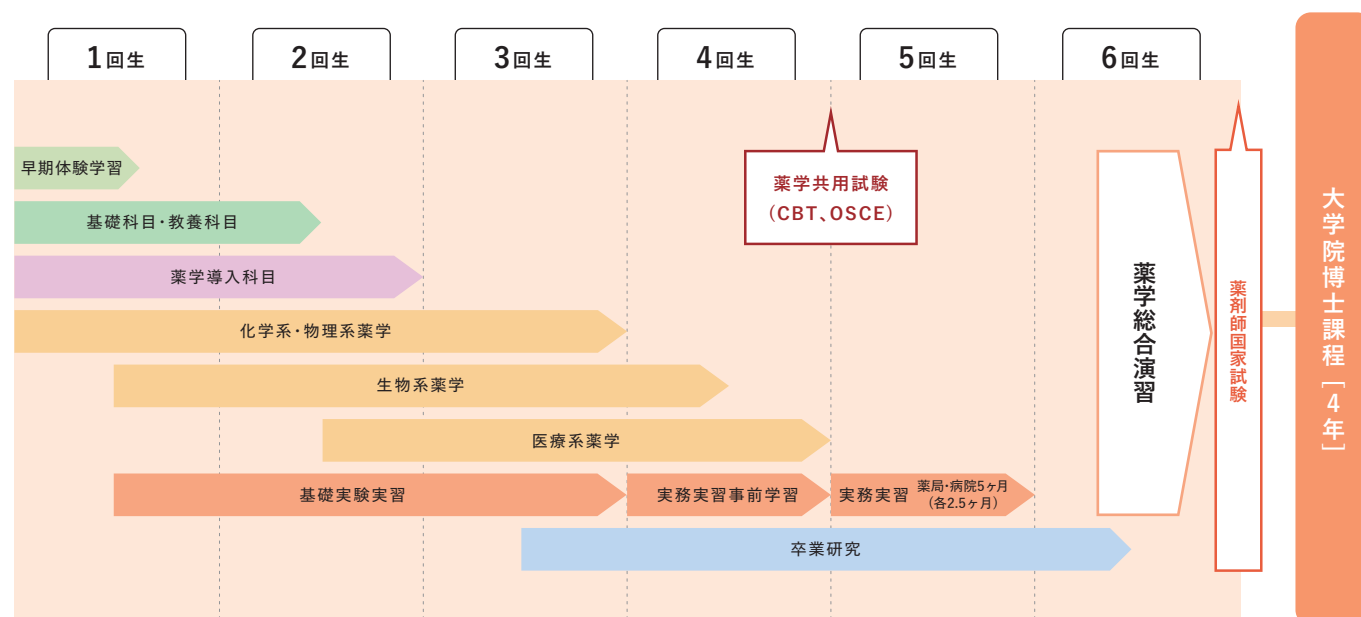


薬を創る

創薬科学

創薬を指向した講義、実習。
研究活動に力を入れる。

- 卒業研究
○ 大学院



教養科目で幅広い知識を身につけるとともに、薬学導入科目で薬学の基礎をしっかりと修得。さらに年次ごとに化学系、物理系、生物系、医療系薬学の基礎から発展までを系統的に学んでいきます。また、卒業研究では特定のテーマに基づき研究を行うことで、問題解決能力を養います。

薬学の深みを知り、 新薬開発への思いが強くなる。



薬学科3年生
福田 穂為 (半田高等学校 出身)

薬学分野に興味を持ったきっかけや時期、立命館大学 薬学部に進学を決めた理由は？

中学生の頃に薬を飲んだとき、なぜ薬を飲むと症状が良くなるのだろうと疑問に思ったことです。薬が体の中でどのように働いているのか、その仕組みを知りたいという思いから、薬学に関心を持ちました。進学を決めた理由の一つは、高校で物理を得意とし選択していたため、物理を利用して受験できる薬学部を探していました。薬学部は化学・生物での受験が多い中、自分の強みを生かして受験できる点に魅力を感じました。

今、学んでいることは？

1、2回生では薬学を学ぶための基礎知識を中心に学びました。3回生になると、薬の作用や用途を学ぶ薬理学、病気の仕組みと治療について学ぶ病態薬物治療学など、より専門的な内容が増え、薬学を学んでいる実感が強くなりました。また、生化学・分子生物学実習等の実習も本格化し、学んだ知識を実際に活用しながら理解を深めています。講義の知識と実習の実践が結びつく面白さを感じています。

特に興味のある分野は？

特に興味を持っている分野は有機化学です。高校時代の有機化学は暗記中心の学習でしたが、大学では化学反応が起こる理由や分子同士の関係を論理的に学ぶことができ、とても面白いと感じています。まるでパズルを組み立てるように化合物を設計したり反応を予測したりする過程に魅力を感じており、将来的にも深く学びたい分野の一つです。

今後の目標や将来の夢は？

入学当初は、6年制薬学科で学び薬剤師になることを目標としていました。しかし、大学でさまざまな講義を受けたり、先生方や現場で活躍されている方々のお話を聞いたりする中で、薬剤師以外にも製薬企業や研究職など幅広い進路があることを知りました。現在は、人々に貢献できる新しい医薬品の開発に携わりたいという思いが強くなり、将来は製薬企業で働くことを目標としています。

1日の流れ (3回生時)

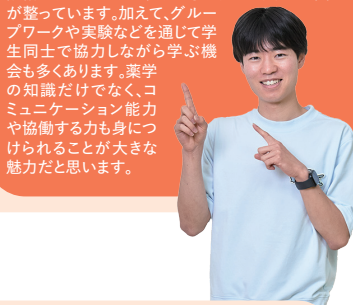
1限目 薬理学C	薬の作用機序や副作用について学んでいます
2限目 病態・薬物治療学	病気が起こる仕組みやその治療に用いる薬などについて学んでいます
3限目 生薬学・天然物化学実習	生薬や天然物由来成分の分析や同定実験を通して学んでいます。また、漢方の調剤や薬草園で実際に植物を観察することも行いました
4限目 生薬学・天然物化学実習	
5限目 生薬学・天然物化学実習	

〈放課後やプライベート〉

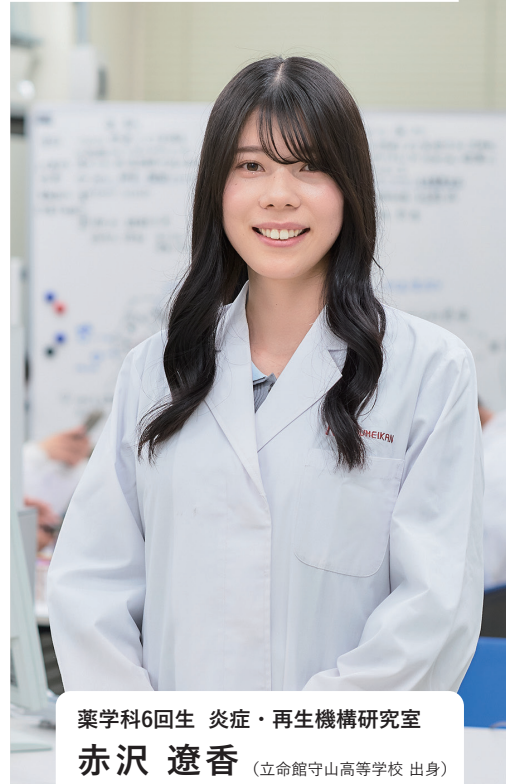
大学ではテニスサークルに所属しており、週に2回活動しています。さまざまな学部や学年の学生と交流できるため、とても刺激になります。また、学内にテニスコートがあり、大学公認サークルに所属していれば気軽に利用できるため、授業や課題の合間にリフレッシュできることも魅力で、学業と趣味を両立しやすい環境です。アルバイトではテニスコーチをしており、小さい頃から続けてきたテニスの楽しさを伝えられることにやりがいを感じています。薬剤師はコミュニケーション能力が重要ですが、アルバイトを通じて相手に分かりやすく伝える力が養われると考えています。

薬学部のアピールポイント

学生一人ひとりを支えるサポート体制が充実しており、アドバイザー教員との面談で、学習面だけでなく将来の進路や大学生活についても相談することができます。また、授業では薬学に関連する多様な職種の方から直接お話を聞く機会があり、将来のキャリアについて具体的にイメージできます。さらに、クロマトグラフィー装置など研究・実習に必要な設備が充実しており、実践的な学びを支える環境が整っています。加えて、グループワークや実験などを通じて学生同士で協力しながら学ぶ機会も多くあります。薬学の知識だけでなく、コミュニケーション能力や協働する力も身につけられることが大きな魅力だと思います。



患者様の安心に寄り添う。 信頼される薬剤師になるために。



薬学科6年生 炎症・再生機構研究室
赤沢 遼香 (立命館守山高等学校 出身)

薬学分野に興味を持ったきっかけや時期、立命館大学 薬学部に進学を決めた理由は？

幼い頃から医療職に対して憧れがあり、中でも治療の主役となる薬について、なぜ病気に効くのか、体の中でどのように作用しているのか、と疑問に思ったことをきっかけに薬学に興味を持ちました。そして、そんな薬の専門家として治療を支え、人々の健康に貢献できるという点に魅力を感じ、薬剤師を目指しました。

今、学んでいることは？

現在は薬剤師国家試験に向けて勉強をしています。1年次から学んできた基礎知識と実務実習で得た実践経験を結び付けながら、6年間の学びを総復習しています。

所属している研究室の分野は？

所属研究室では、炎症制御に関わる分子に着目し、組織線維化の克服、またそれに基づく再生医療の確立を目的として研究が行われています。私は抗がん剤ドキシソビンの副作用である心筋症に対する新規遺伝子治療の開発というテーマで卒業研究をしています。

今後の目標や将来の夢は？

将来は、患者様一人一人の生活に寄り添い、地域医療に貢献できる薬剤師になることを目標としています。実務実習での経験を通して、薬剤師は薬を調剤するだけでなく、患者様が安心して生活できるよう継続的に支援する重要な役割を担っていることを学びました。将来は、認定資格の取得などを通して専門知識をさらに深め、予防から治療、在宅医療まで幅広く対応できる力を身につけたいと考えています。そして、患者様や他職種から信頼される存在として、地域に根差した医療に貢献できる薬剤師を目指したいです。

1日の流れ (4回生時)

1限目 臨床薬理学	講義、薬剤の特性や薬物の体内動態などを踏まえ、個々の患者状態に応じて薬物療法を適切に個別化する考え方について学びました
2限目	
3限目 医療薬学実習	実習。調剤や服薬指導、フィジカルアセスメントなど薬剤師に求められる技能・知識・コミュニケーション能力を習得しました
4限目 医療薬学実習	
5限目 医療薬学実習	

〈放課後やプライベート〉

休日は友人と出かけたり、学習塾でアルバイトをしたりしています。趣味は愛犬との散歩です。長期休暇には友人とよく旅行をします。



薬学部のアピールポイント

薬学科と創薬科学科の2学科体制のため、薬剤師以外にも企業就職や大学院進学など、様々な進路を志す人と同じ学部で学ぶことができ、多様な価値観に触れながら成長できる環境が整っています。また、実践的な学びが充実している点も魅力です。早期から薬局・病院見学を経験できるため将来のビジョンを描きやすく、人体解剖見学といった医療系学部ならではの貴重な体験もできます。さらに実習を通して、薬学に関する知識を深く学ぶことができます。特に実務前実習では、医療シミュレーターロボットを用いて全身状態を評価するスキルを身に付けたり、患者様や他職種との応対を想定したコミュニケーション訓練をしたり、臨床現場で求められる知識や技能を幅広く実践的に学ぶことができます。専門知識と実践力をバランスよく身に付けながら、多様な進路に対応できる力を養うことができます。

世界中の健康と幸福を願い グローバルに活躍する 創薬人材をめざして。



創薬科学科2年生
小島 陽斗 (岐阜高等学校 出身)

薬学分野に興味を持ったきっかけや時期、立命館大学 薬学部に進学を決めた理由は？

中学2年の時、病気が原因で不登校になった友達がいました。その友達は薬のおかげで学校に行けるようになりましたが、症状が重い日は学校にいけませんでした。少しでも症状が軽くなる薬を作り、友達のように苦しんでいる人を助けたいと思ったのがきっかけです。人類の健康と幸福に貢献し、グローバルに活躍できる人材育成を目指している立命館大学薬学部では、薬の知識を学べるだけでなく、海外で活躍するための知識も習得できるといったため進学を決めました。

今、学んでいることは？

病院や薬局に備蓄されている薬の効果とその作用、さらに副作用についての基礎知識について学んでいます。

特に興味のある分野は？

特に有機合成系に興味を持っており、有機化学の知識を活かせる研究室に所属したいです。

今後の目標や将来の夢は？

薬学の知識をもっと身に着けるのはもちろん、英語のコミュニケーション能力を向上させて日本だけでなく、海外でも活躍できるような人材になりたいです。最終的には製薬企業に就職して新薬の開発をしたいです。

1日の流れ (2回生時)

1限目	
2限目 英語 S3	英語のディベート能力の向上のため、グループを作ってディベートを行っています
3限目 物理化学C	気体分子の運動について学習しています
4限目	
5限目 有機化学C	化合物の反応はどのように起こるのかについて学習しています

〈放課後やプライベート〉

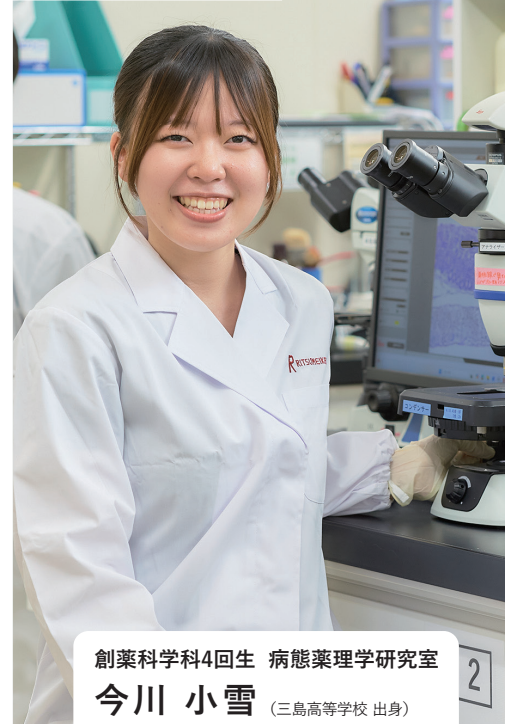
放課後は薬学部の友達と図書館に行き、実習の予習やその日にあった授業の復習をしています。プライベートでは一週間で学んだことの総復習を行い、来週の授業の予習をしています。最近、ボランティアサークルに入りました。まだ活動には参加できていませんが地域活性化のために少しでも貢献できるように尽力したいです。趣味は音楽を聴くことです。アルバイトは平日の早朝に大学の食堂バイトをしており、休日は試験監督をしています。

薬学部のアピールポイント

立命館大学では薬について多角的な視点から学ぶことができます。また、海外大学・研究機関との交流が盛んに行われていて、国際的な視点を持つのも魅力の1つです。薬学教育支援センターによる手厚い学習支援を受けることもできます。



副作用の少ない治療薬を より早く、より多くの 患者様に届けたい。



創薬科学科4年生 病態薬理学研究室
今川 小雪 (三島高等学校 出身)

薬学分野に興味を持ったきっかけや時期、立命館大学 薬学部に進学を決めた理由は？

中学生の頃、祖父が抗癌剤による治療で苦しんでいることを知り、より副作用の少ない治療薬を開発したいと思い薬学分野に興味を持ちました。立命館大学の薬学部に進学を決めた理由は、総合大学なので他学部との交流が多いことや、英語の学習に力を入れているということに魅力を感じ、進学を決めました。

今、学んでいることは？

肝臓の疾患に対する治療候補薬の探索を行っています。細胞とマウスを用いて研究を進めています。

所属している研究室の分野は？

私が所属している研究室は、薬が生体にどのような影響を与えるのかを細胞や動物を用いて研究する「薬理学」の分野です。

今後の目標や将来の夢は？

今後の目標は自分の研究成果を国内外の学会で発表することです。将来は大学生生活で得た知識を活かし、より早く新薬を多くの患者様に届けられるように、治験に関する職に就きたいと考えています。

1日の流れ (4回生時)

1限目 卒業研究	
2限目 卒業研究	研究室で、研究活動を行う。
3限目 卒業研究	課題に対して論文検索、
4限目 卒業研究	セミナー発表、実験をおこなう。
5限目 卒業研究	

〈放課後やプライベート〉

研究室のメンバーは仲がいいので、放課後は研究室の人たちとよくご飯を食べに行っています。またアルバイトは基本的に休日にすることが多いです。



薬学部のアピールポイント

立命館大学の薬学部は英語の必修授業が3回生まであり、英語でプレゼンテーションを行う機会があるため、スピーキング力を高めることができます。また総合大学なので、サークルや教養の講義で他学部と交流の機会があり、交友関係が広がります。定期試験前に勉強する場所が2つの図書館だけではなく、多くの建物に自習スペースが設置されているところも魅力の一つだと思います。



上南 静佳さん 博士(薬学)
独立行政法人医薬品医療機器総合機構
(PMDA)(新薬審査第四部)
(薬学研究科・薬学専攻・博士課程 修了)

現在の職業・企業を選んだ理由をお教えてください。

博士課程で培った研究マインドと薬学の専門性を活かし、行政と科学をつなぐ立場で医薬の発展に貢献したいと考えPMDAを志望しました。

現在の仕事内容をできるだけ具体的に教えてください。

PMDAは医薬品等の「審査」「安全対策」「健康被害救済」の三業務を担う日本唯一の行政機関です。それら三業務の中でも私は新薬の「審査」部門に所属しております。新薬審査第四部では感染症やアレルギー疾患の医薬品を担当しており、有効性や安全性等の評価(審査)を行ったり、医薬品開発に関しての相談業務を行なっています。例えば、感染症治療薬の開発に関しては、「どんな菌に対して効きそうなのか」「難治な患者でも有効性が期待できるのか」「同じ作用機序の医薬品と比べて安全性のプロファイルはどうか」等といった観点で審査・助言を行なっています。

大学で、学部(研究科)で特に力を入れたこと、思い出に残っていること(学びや研究、プロジェクト・学部のプログラムなど)を具体的に教えてください。

RARA学生フェローとしての活動が思い出に残っています。特に、分野や研究背景が異なる学生や研究員との意見交換を通じて、自身の考えだけに縛られない力や、逆に、外野の意見に惑わされず考え抜く力が鍛えられました。

上記を踏まえ、そうした経験や獲得した力が、現在の仕事に活かされていると感じることがあれば教えてください。

現在の仕事では、案件ごとに担当が割り振られ、検討内容をチームメンバーと議論する会議が毎週のように行われます。会議で大事にしていることは「自身の見解を明確に持つこと」です。RARA学生フェローでは自身の研究を他分野の学生等に繰り返し説明し、多様な視点から意見を受けることで、考えを客観的に見直してきました。この経験は、明確な意見を示した上でメンバーの考えを取り入れ、よりよい結論へ導く力として、業務に活かされていると感じています。

大学卒業後、就職してから得た学びなど、エピソードがあれば教えてください。

相談や審査の業務以外にも、国際関係の仕事ができないかと積極的に上司に掛け合っていたこともあり、入職してからは、海外当局との会議への参加や議事録作成、海外企業向けの通知作成、英語を用いた相談業務等のメンバーとして、PMDAからの情報発信に関わらせていただきました。(就職してから自分自身が一番驚いたことは、早起きができるようになったことです。学生時代は朝がどうしても苦手だった私ですが、土日ですら8時までに起きるようになりました。)

将来の目標や、そのために今チャレンジしていることなどがあれば教えてください。

将来は、医薬品開発における国際基準の作成に携わりたいと考えています。どの業界でも同じかもしれませんが、言葉の使い方を誤ると、相手に誤解を与える可能性があります。特にPMDAの業務においてはそれが医薬品の開発・評価に影響を与える恐れもあることから、一つ一つの言葉を慎重に検討しています。まだ日本語の力を鍛えている最中なのですが、それと並行して、上記のことを英語でも実践できるようになりたいと、色んな国際業務にチャレンジしています。

貴方にとって、立命館大学の最大の魅力とは何でしょうか

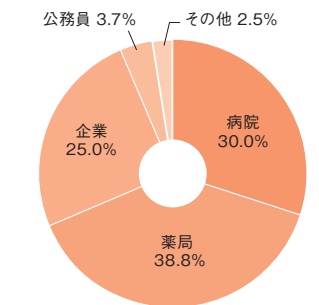
他者を認め合う環境が整っていることは立命館大学の大きな魅力ではないでしょうか。立命館大学の偏差値・ブランド等から推測するに、かなり幅広い学力・価値観を有する学生が入学していると思います。薬学部の授業カリキュラムにしても、個人作業よりチーム作業に重きを置いている印象があります。様々なバックグラウンドをもつ学生が、異文化交流のような形で、お互いを認め合い、そして、強め合った結果、さらに自由な思考と新たな価値が生まれているのだと思います。その結果、面白い人が多いことも魅力だと思います。

進路・就職状況

薬学科

高度化する医療現場において自ら課題の解決に取り組める「研究マインド」を持った薬剤師を育成。

2025年度卒業生 業種別進路決定状況



※民間・公務員の就職者(雇用契約期間1年未満またはフルタイム勤務でない就職者は除く)

2025年度卒業生 進路・就職先一例

病院	企業	
大阪大学医学部附属病院	IQVIA ジャパングループ	株式会社ツムラ
関西医科大学附属病院	大塚製薬株式会社	東和薬品株式会社
国立大学法人千葉大学医学部附属病院	興和株式会社	日本新薬株式会社
国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学医学部附属病院	沢井製薬株式会社	マルホ株式会社
産業医科大学病院・産業医科大学若松病院	参天製薬株式会社	Meiji Seika ファルマ株式会社
滋賀医科大学医学部附属病院	大鵬薬品工業株式会社	
薬局	公務員	
地方独立行政法人京都市立病院機構	株式会社アインホールディングス	国家公務員総合職(経済産業省)
奈良県立医科大学附属病院	クオール株式会社	国家公務員総合職(特許庁)
日本赤十字社 広島赤十字・原爆病院	株式会社クスリのアオキ	滋賀県病院事業庁
和歌山県立医科大学附属病院	株式会社スギ薬局(スギ薬局グループ)	大阪市
	株式会社ユタカファーマシー	

現在の職業・企業を選んだ理由をお教えてください。

地元の病院で働きたいと思っていたためです。また、実務実習でお世話になった際に病棟での業務にやりがいを感じたことや、大学病院で研究などに力を入れているので自分の成長に繋がると感じたからです。

現在の仕事内容をできるだけ具体的に教えてください。

セントラル部門で内服薬・外用薬、注射薬の処方監査、調剤などの薬剤払い出し業務、薬の発注や期限チェックなどの管理、抗がん剤のミキシング、実習生に対して課題解説や業務の説明などの実習生対応、研究グループ内で統計を取るなどの業務、病棟での患者さんへの服薬指導、効果・副作用のモニタリング、医師や看護師からの相談応需、処方提案、病棟実習の実習生対応、NST薬剤師としてカンファレンス参加、使用薬剤情報収集

大学で、学部(研究科)で特に力を入れたこと、思い出に残っていること(学びや研究、プロジェクト・学部のプログラムなど)を具体的に教えてください。

実務前実習などの実習が多く、その中でものロールプレイや処方の課題には積極的に取り組みました。実務実習後にはPh.Aとして後輩の実習にも参加しました。

英語に興味があったので、在学中に2度留学プログラムに参加しました。1度目は1か月間のホームステイや現地の大学での授業を通して英語での生活に身を置き、文化なども学ぶことができました。2度目は世界的にも有名な小児病院を見学することができ日本との薬物治療の違いや薬剤師の社会的位置の違いを感じることができました。

上記を踏まえ、そうした経験や獲得した力が、現在の仕事に活かされていると感じることがあれば教えてください。

実務前実習などにロールプレイを数多く行ったことが、患者さんへの対応や医師、看護師とのコミュニケーションをとることに活かされていると感じます。有機化学の研究室に所属していたため、注射薬の配合変化などを聞かれたときに考え方が身についていると感じます。

大学卒業後、就職してから得た学びなど、エピソードがあれば教えてください。

授業内では添付文書や腎機能に則った投与量や用法用量が絶対で必ずそう投与するのが正しいと学びましたが、実臨床では必ずしもそのように薬を服用している場合ばかりではなく、患者さんの状況に合わせて腎機能が多少悪くても治療強度を優先させたりすることがあると学びました。薬剤師としては添付文書や検査値をもとに投与量などを計算しますが、実際に近くで見ている医師や病棟薬剤師に確認を取って、その患者さんに適した量や飲み方で治療が進められるように日々意識しています。

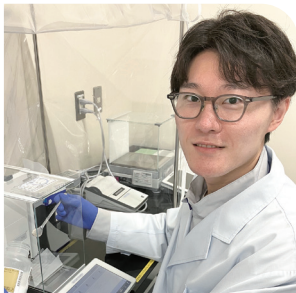
将来の目標や、そのために今チャレンジしていることなどがあれば教えてください。

病棟配属されまだ1か所の病棟しか経験していないため、他の診療科の薬物療法について知識が不足していると感じています。

これからほかの病棟へ異動し、各診療科の薬物療法を学んでいきたいと思います。また去年からNSTのチーム医療にも参加しており、栄養についての勉強もはじめています。今後入院患者さんの栄養状態や使用している栄養剤が患者さんごとに適しているか評価、提案できることを目指して勉強しNST専門療法士認定資格取得を目指しています。

貴方にとって、立命館大学の最大の魅力とは何でしょうか

やりたいこと(自分だったら海外留学)を実現できるようなプログラムやサポートが整っていることや、実習には実際に薬局や病院で働いている先生方が多く参加していることが良い点だと思います。国試の勉強期間には教育支援センターの先生が適宜自分に合ったアドバイスをくれたこともとても心強かったです。



菅原 遼さん
ニプロファーマ株式会社
(品質管理本部 注射剤統括本部 伊勢工場)
(薬学研究科・薬科学専攻・博士課程前期課程 修了)

現在の職業・企業を選んだ理由をお教えてください。

多種多様な医薬品を扱う環境で、品質管理の専門性を深めたいと考えこの会社を選びました。現在は、注射剤の製造現場で、製品の品質を守る重責を担っています。大学で学んだ知識や論理的思考力を武器に、多角的な視点で品質を管理し、患者様に安心を届けることが日々のやりがいです。これからも専門性を磨き続け、医療現場をしっかり支えられるプロフェッショナルを目指します。

現在の仕事内容をできるだけ具体的に教えてください。

品質管理職(QC)とは、医薬品が法的な基準や自社の厳しい規格を満たしているかを科学的なデータに基づいて証明・保証する仕事です。私はその中で、全ての医薬品の入口となる「原料試験」をメインに担当しています。

具体的には、pH計や分光光度計、FT-IRといった分析機器を用いて、原料の成分や特性を精密に分析しています。品質の根拠となる正確なデータの一つひとつ積み重ね、製品の品質を確かなものにするのが私の役割です。自分が携わったデータが医薬品の安心につながり、結果として患者様の安全を支えることに、強い責任とやりがいを感じています。

大学で、学部(研究科)で特に力を入れたこと、思い出に残っていること(学びや研究、プロジェクト・学部のプログラムなど)を具体的に教えてください。

卒業研究での実験データの検討です。納得のいく結果が得られない時もあきらめず、仮説と検証を繰り返すことに時間をかけました。一人で抱え込まず、教員や研究室の仲間と意見を交わし、多角的な視点から課題の解決策を探るよう意識しました。試行錯誤を繰り返した経験は、研究に向き合う姿勢を形作る貴重な学びとなりました。

上記を踏まえ、そうした経験や獲得した力が、現在の仕事に活かされていると感じることがあれば教えてください。

この「周囲と対話しながら、課題に対して粘り強く取り組む姿勢」は、品質管理職としての私の土台となっています。原材料という医薬品の入口を扱う業務では、正確なデータを出すための丁寧な作業と、周囲との連携が不可欠です。困難な状況でも強りよりにならず周囲の意見を取り入れながら最善を尽くした大学時代の経験が、今の職場で一つひとつのデータに真摯に向き合う強みとして活きています。

大学卒業後、就職してから得た学びなど、エピソードがあれば教えてください。

社会人となり、品質管理の仕事を通じて「誠実さ」こそが品質を守る根幹であると学びました。入社当初はデータの重要性を十分に認識できていませんでしたが、僅かな違和感やエラーが大きなリスクに繋がり得ることを知り、事実とまっすぐに向き合うことの重要性を強く認識するようになりました。現在では、何かあった際に一人で判断せず、素直に試験責任者へ報告・相談することを徹底しています。小さな異常を共有することが、製品の信頼性、患者様の安心を守ることに直結すると確信しています。この、どんな小さなことも見過ごさず誠実に向き合う姿勢を、これからも大切にしていきたいと考えています。

将来の目標や、そのために今チャレンジしていることなどがあれば教えてください。

これまでに培った正確かつ着実な試験遂行能力を基盤に、今後は試験責任者として、より広い視野で品質管理を支える存在を目指します。担当業務に加え、試験全体の進捗管理やデータ整合性の確認、トラブル時の迅速な判断など、試験工程の大事な役割を担えるように挑戦したいと考えています。そのため現在は、自分の担当範囲だけでなく、試験全体を見渡しながら周囲と協力することを意識しています。専門知識を更に磨き、チームのメンバーから頼りにされる存在になることで、より良い製品づくりに力を尽くしていきたいと考えています。

貴方にとって、立命館大学の最大の魅力とは何でしょうか

最大の魅力は、全国や世界から若者が集う圧倒的な多様性です。学生の過半数が近畿県外出身であり、地域を超えた刺激的な出会いが日常的に生まれます。また、世界各国の留学生も多く、キャンパス内には国境を超えた対話が溢れています。所属研究室ではカナダのトロント大学との交換留学を通じ、異なる文化や考え方を持つ相手と積極的に交流しました。多様な背景を持つ仲間と協働し、広い視野とグローバルな視点を養える環境は、立命館大学ならではの大きな強みです。

創薬科学科

創薬の高度な専門知識と研究力を有し、医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を育成。

創薬科学科の卒業生は、創薬・製薬分野での研究・開発職としての活躍はもちろん、化学・化粧品・食品メーカーや商社、行政機関においても薬学の知識を持った人材が求められており、進路の可能性は多岐にわたります。また、多くの卒業生が大学院へ進学し、より高度な研究に取り組んでいます。将来はその研究成果を製品化につなげる開発職や技術営業など、広く人々の健康に奉仕する産業分野での活躍が期待されます。

※創薬科学科(4年制)では薬剤師国家試験の受験資格を得ることはできません。

2025年度卒業生・大学院修了生 進路・就職先一例

エーザイ株式会社	タカラベルモント株式会社	日本光電工業株式会社
大塚製薬株式会社	東レ株式会社	ニプロ株式会社
キッセイ薬品工業株式会社	東和薬品株式会社	扶桑薬品工業株式会社
佐藤製薬株式会社	テルモ株式会社	マルホ株式会社
株式会社新日本科学	日産化学株式会社	株式会社リニカル
タカラバイオ株式会社	日本新薬株式会社	国家公務員一般職(厚生労働省)



松田 清那さん
大塚製薬株式会社(徳島創薬研究センター
前臨床研究所 薬物動態研究部)
(薬学研究科・薬科学専攻・博士課程前期課程 修了)

現在の職業・企業を選んだ理由をお教えてください。

患者さんへより良い医薬品を届けることに貢献したいと考え、現在の職業を選択しました。大学で受講した生物薬剤学の授業では、医薬品は単に効き目の強いものを開発するだけでなく、体内でどのように吸収・分布・代謝・排泄されるのかを理解し、効き目を最大に引き出しながら副作用をできるだけ抑えることが重要であると学びました。現在は、新しい医薬品の候補となる化合物の体内動態を評価し、臨床試験に進んだ際にヒトで十分な効果と安全性が得られるかを予測する仕事をしています。自分の携わった医薬品が将来、患者さんの役に立つかもしれないという期待を持ちながら働けることに魅力を感じています。

現在の仕事内容をできるだけ具体的に教えてください。

創薬プロジェクトの薬物動態担当者として、医薬品の候補となる化合物の評価を主に担当しています。創薬の初期段階で、化合物が体内でどのように吸収され、目的の部位に到達できるか、他の薬との相互作用が生じないかといった点を評価します。また、薬効や安全性を評価する他の研究員と連携しながら、効果と安全性の両立が期待できる開発候補化合物の選定や、プロジェクトの推進に携わっています。

大学で、学部(研究科)で特に力を入れたこと、思い出に残っていること(学びや研究、プロジェクト・学部のプログラムなど)を具体的に教えてください。

大学の研究室では、多くの学会発表の機会をいただき、自身の研究内容や考察を論理的かつ分かりやすく伝える力を培うことができました。また、研究室外の専門分野の異なる方々との議論を通じて、自分では気付かなかった視点や研究を進めるヒントを得ることもありました。現在の部署でも、プロジェクト推進のために薬効や安全性など異なる専門性を持つ研究員と協働する機会が多くあります。大学で培った、専門の異なる相手とも互いに理解しやすい形で意見を交わし、議論を通じて新たな視点を取り入れる姿勢は、研究を進める上で活かされています。

大学卒業後、就職してから得た学びなど、エピソードがあれば教えてください。

製薬会社における薬物動態研究は、大学での研究と比較して求められる知識や評価項目の幅が広いことを実感しました。医薬品の候補となる化合物を多面的に評価するため、薬物動態に関する様々な試験を実施します。その結果を薬効や安全性など他分野の知見もふまえて、総合的に判断する力が必要です。また、開発スケジュールや勤務時間を意識したデータ取得も重要です。大学では一つのテーマを深く追究する力を培いましたが、現在は限られた時間の中で優先順位を考えながら研究を進める力が求められており、大きな学びとなっています。

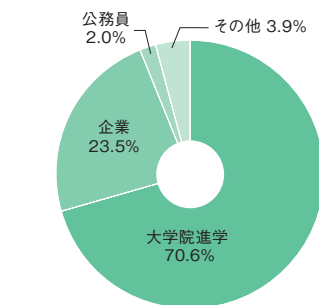
将来の目標や、そのために今チャレンジしていることなどがあれば教えてください。

今後は、創薬プロジェクトの中で生じる課題に対して、薬物動態の観点から柔軟に解決策を提案できる研究員になることを目標としています。将来的には、承認申請に近い業務にも携わり、医薬品が患者さんのもとへ届くまでのプロセスにより深く関わりたいと考えています。そのため、日々の業務を通じて薬物動態に関する知識や経験の幅を広げるとともに、グローバルな開発にも対応できるよう、英語学習にも継続して取り組んでいます。

貴方にとって、立命館大学の最大の魅力とは何でしょうか

専門分野を深く学べる環境に加えて、総合大学ならではの強みとして、様々な学生と関わる機会が多かったことが魅力だと感じています。私自身、学生運営のキャリア支援カフェでのアルバイトを通じて多くの学生と接する中で、多様な価値観や進路に触れ、早い段階から自分のキャリアについて考えるきっかけを得ることができました。その経験が、現在の職を選択するうえで大きな影響を与えたと感じています。

2025年度卒業生 業種別進路決定状況

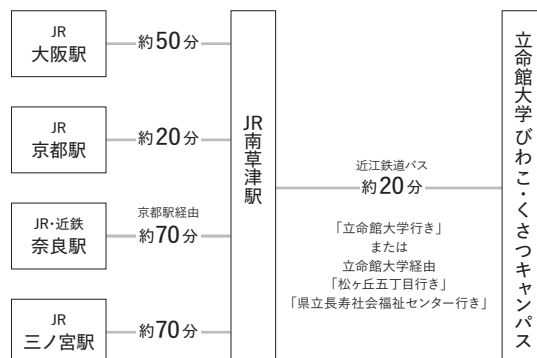


進学率
70.6%

交通アクセス



JR東海道線(京都線)でお越しの方



数字で示す薬学部

全国から集まる学生

42 / 47都道府県

近畿地方出身率 **55.4%**

近畿地方を中心に、全国から学生が集まっているのも本学の特長。様々な仲間と出会い、ともに成長できます。

BKCキャンパス学生数

13,912人

※大学院生を含む

生命科学部や理工学部など3つの理系学部と、経済学部をはじめとする文社系学部の学生が学ぶBKCキャンパス。様々な背景や目標を持つ仲間と豊かな交流が図れます。

2025年度の薬剤師
国家試験合格率

〈第111回〉

96.25%

全国私立大学4位
関西圏私立大学1位

※合格率は新卒のもの



立命館大学 薬学部

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1

【問い合わせ先】立命館大学入学センター TEL.075-465-8351



〔薬学部サイト〕

薬学科 6年制 創薬科学科 4年制

入試の概要から、カリキュラム、指導教員、卒業生の活躍まで、薬学部のすべてがわかるサイトです。